



ONE'S  
voice

野田秀樹 × アイタイヒト

## 野田秀樹 × 衣裳家 ひびのこづえ

### リアルには存在しないものを、衣裳という形にする。

俳優が躍動し、物語は時空を超え、詩のようなせりふが現実を引き寄せる――。

そんな野田秀樹の舞台の衣裳を、この25年、ほとんど手がけてきたのが、コスチューム・アーティストのひびのこづえさんだ。

脚本、演出、俳優を兼ねる多彩な異能の人と並走する苦労と、日々の創作から生まれる芸劇への提案を聞いた。

#### 俳優・野田秀樹と、 演出家・野田秀樹を取り合う

野田 東宝がプロデュースした『から騒ぎ』で仕事をしたのが最初だね。あれが90年だから、もう25年前になるんだ。

ひびの あの時、誰が私に決めてくれたんですか？

野田 僕が自分より更に若い世代と仕事したくて「若い人でいい衣裳デザイナーいない？」と聞いたら名前が挙がったんです。

ひびの ずっと気になっていたことをようやく聞きました(笑)。

野田 でも、一番最初に出してくれたプランは、今のひびのこづえを知っている人が観たら、きっと信じられないくらいおとなしいものだったね。

ひびの そうそう。それまでは小劇場の衣裳は手がけたことがありましたが、『から騒ぎ』は日生劇場という大きな劇場だったし、衣裳の縫製も外注だし、いつも私がつくっているような衣裳はつくれないかもと勝手に思ってた。それを野田さんに見透かされて「やりたいようにやってほしい」と言ってもらえたのがとても良かったんです。

野田 そうしたら、次に持ってきてくれたものが「やりたいようにも程がある」だった(笑)。「こんな大きなものを頭に被せますか？」という。

ひびの おかげさまで吹っ切れたので(笑)。

野田 当時はまだパブル時代だったから、予算も潤沢でね。ただでさえ、絢爛豪華で手の込んだひびのさんのデザインを、二幕から一幕と形は同じで色だけすべて、白黒にして欲しい、といったようなアイデアがすんなり通っ

た。今だと「照明で何とかして」という話になってしまうよ。

ひびの 私、時々、「野田さんにとって衣裳って何だろう？」と寂しくなることがあるんですよ。野田さんが役者として作品に出演している場合は特に。稽古が始まると、演出家・野田秀樹と話し合う時間が減って、置いていかれた気持ちになるんです。

野田 それは他のデザイナー(照明や美術)からも言われますね。「野田、早く役者を辞めろ」説。

ひびの 辞めてほしくはないです。私は台本さえ早めにもらえればいいの。

野田 それは全くその通りです、はい(笑)。

ひびの 稽古が始まる少し前にでも完成した台本があると、ある時期に野田さんを独占して打ち合わせができるんですけど、書き上

がった日に稽古が始まると、そうは行かないじゃないですか。それに稽古場でどんどん新しいアイデアが生まれていくと、なかなか追いつけなくなる。ペースがしっかり固まった上で新しいオーダーが来るならいいんですが、私の中ではペースが固まっていない、野田さんとも確認が取れていない状況で現場が先へ進んで行くと、揺れるんです。しかも野田さんの頭の中では、役者をどう動かすかという問題に意識が集中していく。最近は稽古場に出かけて行って野田さんを捕まえて話すようにしています、それでもなかなか……。

野田 そうだね。演出が最後まで出来上がっていないのに、稽古場でのアイデアを僕がポンポン言うから「そういうことならこの衣裳は成立しないけど？」となってしまうのはよくわかる。……ん？ 今日反省会?(笑)

ひびの いえいえ(笑)、せっかくこうして野田さんと話をする時間をもらえたから、どういふうに思っているのかなと。

野田 言ってもらったことはよくわかるし、大きい反省材料です。照明は稽古が進行してからも間に合うけど、衣裳と装置は相当前から準備が必要だからね。

#### あえて少しの不完全さを残すのが演劇

ひびの 『エッグ』の初演(2012年)は本当に大変でした。

野田 それまでが一番大揉めしたね。夫婦で言ったら離婚寸前の危機的状況だった。

ひびの 3つの時代が交錯した話で、野田さんがどの時代を中心に考えているかがなかなかつかめなくて。新作は毎回そうなんですけど、野田さんの頭の中についていかなきゃいけないのに、野田さんは説明してくれない。それが新作のおもしろさでもあり、超えなければ



NODA・MAP 第17回公演『エッグ』

撮影：岡本隆史

ばいけない高いハードルであり……。

野田 説明しないんじゃないかって、説明できないだよ。僕自身がわかっていないから、とにかく稽古場を見つめて、話がどこに落ちていくのがいいか、『エッグ』ならどの時代が中心なのかを、つかもうとしているの。言い訳じゃないけど、衣裳というビジュアルは、お客さんにとってものすごく強烈な情報になるものでしょう？ ある意味、解釈を与えるってことだから、多くのものを求めている注文することになるんだよね。

ひびの 野田さんの脚本の中には、リアルじゃない言葉や状況がたくさん出て来る。そこを全部リアルな衣裳でやったらどうなるだろうということ、毎回考えます。例えば『エッグ』の3つの世界を、それぞれの時代にフィットする衣裳を持ってくればそれでいいのか、とか。でも私が台本を渡されて最初に読んだ印象は、どの時代もリアルには存在しない不思議なもので、それを衣裳という形にしたいから野田さんは私を呼んでくれるのかなとか、いつも自問自答しながらやってるんですけど。

野田 そうなんだよ。最初は「え、これが看護婦の衣裳？ あんまり看護婦っぽく見えないなあ」と文句を言うんだけど、舞台上のあの空間の中での最終的な見え方としては、あなたが出してくれたものが正解で。だから出来上がった『エッグ』の衣裳のビジュアルは、僕は好きですよ。申し訳ないのは、スタイリッシュなデザインが出てきた時に――たとえば妻木(聡)くんの役は、人気があるスポーツの選手ではあるんだけど、どこかダサいところがあるから――、あえて崩してもらうことになる。劇作家に置き換えたなら、すごくいいせりふを書いたのに「カットしてください」と言われるのと一緒にだもんね。もったいないし、非常に残酷なことを要求しているわけで。

ひびの そこが、いつも本当に葛藤ですよ。野田 言うまでもなく、僕はひびのさんを舞台衣裳家ではなくてデザイナーだと思って仕事をお願いしているのね。だからわかっているつもりなんですけど、デザイナーさんって、受け持ったパートはすべて自分で作り上げるものだと考える傾向があるように思う。ある世界観を完成させて提示するのが仕事というのかな。でも舞台の場合は、少し不完全でない



東京芸術劇場 × 明洞芸術劇場 国際共同制作『半神』

撮影：岡本隆史

と、隙間がないと、実はだめなんだというのが僕の持論。

ひびの なるほどなあ。

野田 演劇の種類にもよるし、どういう演出をするかにもよるんだけど、完璧な器を用意してその中に役者を入れると、役者が窮屈さを感じるように思うんだよ。

ひびの すごくお洒落につくってしまうと、演劇の衣裳としては隙間がないものになってしまうですね。それにしても『エッグ』は(現実と)リンクしましたね。初演の時は決まっていなかったのに、あのあと東京オリンピックが決まって。

野田 そして中国との不仲もね。オリンピックは「やっぱり東京での開催はないでしょ」という方向で何となく話が出ていたと思うけど、中国との関係がこんなに冷え込むとは、初演の時は考えてもいなかった。劇中の中国戦のエピソードは、2年前より今度の上演のほうがいみんなドキドキするんじゃないかな。

ひびの そういうふうにも、同じ内容なのに意味が変わって感じられるのも再演のいいところですよ。

#### 野田版の子供演劇と、 レパトリーシステムを

野田 この間(14年9月～10月)の韓国キャストの『半神』の時はじっくり仕事が出来たよね。あれは何度目かの再演だったけど、僕は演出に徹していたし。

ひびの だから今後の野田さんには、再演を積極的にやってほしいんです。衣裳の立場からすると、再演は基本的にプランを新しくすることはできませんが、長くひとつの作品を続けていくのは、とてもいいことだと思います。

野田 ある種のレパトリーをつくるという



# ONE'S voice

野田秀樹 × アイタイヒト

ことだね。それには日本のお客さんが、作品が練り上げられていく再演というものの価値を理解してくれることが、まず必要になるんだけど。今度の『エッグ』も、初演から2年ちょっとだから「なぜそんなすぐに？」と言う人もいるくらいで。でも海外だと、いい作品はすぐ別の劇場に移って上演を続けたりする。その辺のシステムが日本で変わるの、役者の層の厚さとかスケジュールとか、劇場の運営のされ方なんかの問題があって、おそらく僕が生きている間には難しい気もするけど。

ひびの その意味では、この間の『半神』はトライアルのきっかけになればいいですね。



野田 あれは発展途上で、世にまだ知られていない役者さんも乗せやすい作品だから、毎年オーディションをして芸劇でレパートリーシステムみたいにできたらいいねという話をスタッフともしたところなんです。

ひびの それが実現したらすごい！ 今まで野田さんがやっていないことですね。

野田 キャスト全員韓国人でハングル語で、俺が出ずにやれたわけだから、なぜそれを日本の役者でやらないかって言われればその通りなんだよ。『赤鬼』なんかもそういうレパートリーになりやすいかもしれない。

ひびの もうひとつリクエストしていいですか。野田さん、ぜひ子供向けの作品をつくってください。私、子供番組(『にほんごであそぼ』Eテレ)に関わっていますが、野田作品でも観てみたい。その時はセットも一緒にやらせてほしいな。結構、ファンタジーも得意なので。なん

て言うと、いつも野田さんの美術を担当している堀尾(幸男)さんに怒られちゃうかしら(笑)。野田 いいね。でも僕が子供のための物語を考えると、すぐにねじれたものを考えてしまうんだよね。

ひびの ねじれたものを見せたっていいじゃないですか。

野田 まあね。でもほら、少し大きくなると、ねじれたものばかり目にするようになるんだから、子供のうちぐらいはさ(笑)。でも題材はいろいろ考えられるね。ラプンツェルみたいな話もいいし、僕の『赤鬼』を子供向けにアレンジするのもいいし。

ひびの 出演者も全員子供にしてください。

野田 それもまたおもしろそうだね。

ひびの 子供向けもそうですけど、やっぱり芸劇には継続するものを企画してほしいです。そのひとつに『LIVE BONE』を加えてもらえたらうれしい。

野田 ああ、ダンサーの森山開次さんとあなたがコラボしているやつね。あの森山君の衣裳を見て、『MIWA』のアンサンブルの衣裳にこれが欲しいって、おねだりしたんだよね。あ、もちろん、パフォーマンスも面白かったよ。

ひびの 基本的にせりふはないし、物語とは違うんですけど、彼の動きと私の衣裳と川瀬浩介さんの音で、大人も子供も楽しめる普遍的な作品をつくっています。今、何かいい作品があっても、「そこに行けばまた見られる」という状況がないから、みんな少しずつ忘れてしまわないですか。そして結局、テレビとかDVDしか観なくなる。まず、劇場に行く癖をつけてあげることが大切だと思うんです。観た人が「これはいいよ」と次の人に伝えて、それを聞いた人が観に行き、また次の人に伝えるという。そんなシリーズを芸劇にぜひつくってほしいです。

野田 劇場のプログラミングって、いろいろなバランスを考えなければいけないし、お金の問題もあるから、なかなか思う通りにはならないんだけど、劇場がレパートリーを持つことは、僕もとても大切だと思う。そういう具体的な話、もっと聞きたいな。

ひびの もちろんです。『小さいきもの研究所』という親子参加型のワークショップも定期的に開いていますし、楽しい話はいくら



でも(笑)。

野田 今年はNODA・MAPだけでなく、10都市共同制作オペラ『フィガロの結婚』でも一緒に仕事をするけど、『フィガロの結婚』はかなり早くからワークショップをやっているし、台本はすでにあるし(笑)、最初に言われた問題はクリアできるんじゃないかな。

ひびの ええ、『フィガロの結婚』、私も早くプランを考えたいです。

取材・構成:徳永京子  
写真:押木良輔

## 今回のアイタイヒト

### ひびのこづえ HIBINO KODUE

ひびの・こづえ 静岡県生まれ。東京芸術大学美術学部デザイン科卒業。コスチューム・アーティストとして広告、演劇、ダンス、パレエ、映画、テレビなどその発表の場は、多岐にわたる。毎日ファッション大賞新人賞、資生堂奨励賞受賞他、展覧会多数。97年作家名を内藤こづえより改める。NHK教育テレビ「にほんごであそぼ」のセット衣裳を担当。歌舞伎「コウケン歌舞伎三人吉三」「野田版 研辰の討たれ」衣裳、野田秀樹作・演出「ザ・キャラクター」、「エッグ」、「MIWA」など衣裳担当。「LIVE BONE」森山開次×ひびのこづえ×川瀬浩介によるダンスパフォーマンスを展開中。  
<http://www.haction.co.jp/kodue/>

### 野田秀樹 NODA HIDEKI

のだ・ひでき 劇作家・演出家・役者。1955年長崎県生まれ。東京大学在学中に「劇団 夢の遊戯社」を結成、一大ブームを巻き起こし92年に解散。ロンドン留学を経て93年、NODA・MAP設立。『キル』『パンドラの鐘』『オイル』『THE BEE』『ザ・キャラクター』『南へ』『エッグ』『MIWA』など次々と話題作を発表。故 中村勘三郎丈と組んで歌舞伎『野田版 研辰の討たれ』『野田版 鼠小僧』『野田版 愛宕姫』の脚本・演出を手掛けるほか、海外の演劇人と積極的に作品を制作するなど、演劇界の旗手として国内外を問わず、精力的な活動を展開。14年5～6月には『THE BEE』English Versionをパリ、ルクセンブルク、ドイツにて上演し、高い評価を得る。09年、東京芸術劇場芸術監督に就任。多摩美術大学教授。

### 「エッグ」

作・演出:野田秀樹 音楽:椎名林檎  
出演:妻夫木 聡 深津絵里 仲村トオル  
秋山菜津子 大倉孝二 藤井 隆  
野田秀樹 橋爪 功

2月3日～22日 東京芸術劇場プレイハウス  
3月26日～4月8日 大阪・シアターBRAVA!  
4月16日～19日 北九州芸術劇場大ホール  
NODA・MAP▶[www.nodamap.com/egg](http://www.nodamap.com/egg)

3月3日～8日 パリ・国立シャイヨー劇場(正式招待)  
製作:東京芸術劇場/NODA・MAP  
協賛:住友生命/TOPPAN

モーツァルト歌劇  
「フィガロの結婚～庭師は見た!～」  
(全4幕、字幕付 原語&一部日本語上演)

指揮:総監督:井上道義  
演出:野田秀樹

2015年5～6月、10～11月に全国10都市にて  
上演予定。(詳細はHPにて発表)  
東京芸術劇場▶[www.geigeki.jp/](http://www.geigeki.jp/)